NPO法人 ezorock 活動報告トピックス

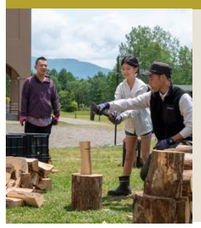
環境対策活動
Earth Care

RISING SUN ROCK FESTIVALでは北海道大学や東洋製罐の方々と協働でブースを運営するなど、新しい取り組みに挑戦しながら、地域のお祭り等5つのイベントで「Do It Yourself」の考えを発信する環境対策活動を行いました。今後はごみがどのように処理されているのか、清掃工場の見学や勉強会を通して、来年の活動に活かせる知識を蓄えています。(ぷりこ)

サイクルシェアサービス
ポロクル/移動円満絵図「道楽」

ポロクルでは、クルー58人で223日間の現場運営を行いました。移動円満絵図「道楽」ではポロクルを使ったツアーの企画やTOWN PICNIC 2024の運営サポート、自転車修理・メンテナンス講座の開催を通して、楽しみながらルールやマナーを学ぶ活動を実施しました。来年度は、より多くの人が「道を楽しむ」ことができるよう、今の時期から準備中です。(ガニー)

都市の若者と森林をつなぐ
プロジェクト「NINOMIYA」

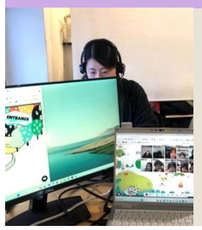


RSRやClubMed等での薪割り体験提供を実施。ClubMedにおいては企業向けの研修としての薪割り・焚き火体験提供プログラムを提案、栗山町では町内住民向けツアーの実施など、連携先と薪割り体験に次ぐ展開が始まっています。 一方で生産拠点での活動を再開したものの、定期的な活動が確立できず体制整備などが今後の課題です。(てつ)

石狩市浜益区で関係人口創出
浜益ベース

滞在型活動拠点「はまますベース」の整備や地域の方との交流、浜益の魅力の発信などを行っています。 地域の方に声を掛けて頂くことが増えましたが、もっと地域との関わりしろを増やし、魅力をもっと外に伝えたいと考えています。そこで、自分たちの活動を地域に伝える「はまま日記」の発行や、浜益のことが分かる「集落の教科書」ミニ版制作に着手しています。(さーや)

関係人口創出プロジェクト
179リレーションズ



昨年度からの継続的な活動も多く、本年度も鷹栖町や栗山町、苫小牧市、旭岳(東川町)などさまざまな地域で活動を行いました。活動報告を掲載したwebマガジン『179RELATIONS』も随時更新中です。12月13日・14日開催の『オンライン関係人口フェスティバル　リレフェス』では延べ100名を超えるみなさんにご参加いただきました。(かんちゃん)

「皮なめし」を切り口に「エゾシカ」問題に触れる
EZOWOLF STORY

エゾシカレザークラフト体験やイベント等での出展等を行いました。クラフト体験では、人間と野生動物を取り巻く環境や課題について考えるきっかけを作ることができ、出展でも多くの方に活動を知ってもらう機会となりました。今後はより多くの人に継続的に野生動物を取り巻く問題に興味を持ってもらうため、活動がどの程度認知されているかを知るための軸を考えていきます。(はつだ)

▶その他　事務所でのメンバー同士の交流

えぞごはん

毎週金曜日は「えぞごはん」と題し、事務所でみんなで夜ご飯を作り、食べています。えぞごはんを通して、会話のきっかけや交流のきっかけが生まれていると感じています。(みさき)

おつかれさま会

夏までの活動をみんなで労うおつかれさま会を今年も開催しました。コアスタッフ、ボランティアスタッフともに沢山の参加があり、プロジェクトチームを超えた交流の場になりました。(みさき)

代表の小言

曖昧な合意形成って やさしい意思決定 なんじゃないか

町内会や田舎の会議に出ていると、結論が曖昧なまま進むことがあります。「AかB」という明確な結論ではなく、「なんとなくこんな感じ」という表現が多いのです。若い頃はこれに違和感を覚え、もやもやしていましたが、最近ではこれが「やさしい意思決定」なんじゃないかと思うようになりました。

きっかけは、ある会議で「田舎じゃ何でもハッキリさせると、生きていけない人が出てしまう」という話を聞いたこと。賛成・反対を明確にすると、対立が生まれたり、日常生活に影響してしまいます。「AよりのB」や「BっぽいA」というやや曖昧な結論は、対立を避け、関係性を重んじる文化の表れと考えると、限られた地域の中で、関係性を重視しながら生きてきた知恵や文化のような気がしています。

最近は、「AかBか」が求められる世界が目立っていますが、「AよりのB」というグラデーションな世界のヒントは、私たちの足元にあるのかもしれません。

草野　竹史

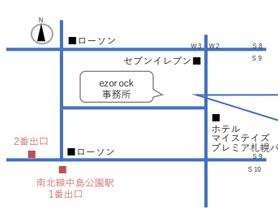
NPO法人ezorock　会員向け情報誌　vol.42　2025.01

Rock The Life ! ezorock

〒064-0809　札幌市中央区南9条西3丁目1番7号
TEL/FAX　011-562-0081　　E-mail　info@ezorock.org
WEB　https://www.ezorock.org

ezorockの最新情報が分かる
各種SNSはこちらから
@ezorockで検索

Facebook　X(旧Twitter)　公式LINE



NPO法人 ezorock

NPO法人ezorock 会員向け情報誌　www.ezorock.org

Rock The Life ! ezorock

2025.01
vol.42

今号の写真
今年度営業終了後、自転車撤去をするクルー

NPO法人 ezorock

サイクルシェアサービス ポロクル

自転車×札幌のまちづくり

ポロクルの取り組み

札幌で広まるシェアサイクルの仕組み

札幌のまちを颯爽と走る赤い自転車、シェアサイクル「ポロクル」。札幌で展開されている、レンタルサイクルシステムです。札幌に住んでいればこの赤い自転車を一度は見たことがあるのではないでしょうか。

NPO法人ポロクルが提供している、このポロクルというシェアサイクルサービス。2011年に事業をスタートし、現在、都心部にある「ポート」といわれる専用駐輪場は約60か所。利用者は、ポートであれば、好きなポートで自転車を借り、好きなポートで自転車を返すことができます。2019年には、従来の白い自転車から、赤い電動アシスト車を採用したり、スマートフォンアプリを導入するなど、新たなシステムを導入しました。

通勤通学での利用はもちろん、観光でのまち巡りにも多く利用されるようになり、2023年には、利用会員登録件数60000件を超えています。回転数と呼ばれる、一台の自転車が一日に使われる回数の平均は4.2回、一日の平均利用回数は2079回(2023年度の実績)と、沢山の人に利用されています。また、自転車のバッテリー切れや故障がかなり少なく、同様に展開している事業者の中で、サービスの質の高さも評価されています。

そんな札幌のまちを中心に大きな広がりを見せるポロクル。実はその現場運営を、約60人の学生を中心としたezorockのクルーたちが担っています。年間約200日。雨にも負けず、風にも負けず、札幌のまちで現場運営を行っています。今年度の営業は11月15日で無事に終了。来年度の営業に向けて準備を進めています。

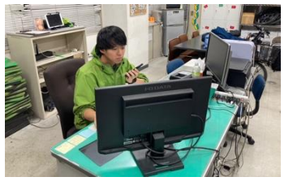
現場を支えるクルーの仕事

「ポロクルクルー」と一括りに言いがちですが、役割によって「クルー」と　「ドライバー」、「クルーリーダー」という3つの役職に分かれています。

「クルー」は自転車および駐輪場の管理や自転車の運搬。

「ドライバー」はこのクルーの業務にプラスして、ポロクルを運搬するハイエースの運転も行います。「クルーリーダー」は、ポロクルのサポートセンターで、ポートの駐輪台数などの情報を管理し、それをもとにクルーに指示を出します。この3つの役割があることで、作業が円滑に、そして安全に進んでいきます。リーダーとクルーの連絡方法は、トランシーバー。クルーたちはトランシーバーを片手に、逐一連絡を取り合いながら作業をしています。

リーダーを中心として使っているのは、専用のシステム。このシステムで各ポートの自転車台数を把握し調整を行っています。また、自転車の点検、修理もクルーの大事な仕事の一つです。パンクしていないか、反射板はついているかなど、一つ一つ点検を行い、利用者が安心安全にポロクルを使えるような整備も行っています。



▲サポートセンターで指示を出すリーダーの様子(左)
タイヤの確認をしている様子(右)

安全安心な札幌のまち

クルーと一緒に考える

ポロクル開始当初、まだ全国的にも広がっていなかったシェアサイクルを実施するにあたり、「新しい移動の手段となりうるシェアサイクルを未来を担う若者たちとつくっていきたい」という運営主体である株式会社ドーコンからの声がけをいただき、協働に至ったポロクルの現場運営。

ただ現場の運営をするだけでなく、現場で感じた自転車や道路空間の課題に対して、プロジェクトチームとして自転車の利用環境向上に向けてイベントを実施したり、行政や他団体が実施する自転車のルール・マナー啓発活動へ参加するなど様々なことに取り組んできました。

【実施・参加イベント（一部）】
・さっぽろホコテンを活用し、自転車の楽しみ方を提案したりルール・マナーについて伝える「TOWN PICNIC（SAPPORO LOVE BICYCLE DAYS）」の開催
・自転車の修理、メンテナンス講座の開催
・さっぽろ自転車押し歩きキャンペーンへの参加
・「サイクルマナーアップキャンペーン」「道民の集い」等行政や他団体が実施する自転車のルール・マナー啓発活動における街頭啓発や自転車の模範走行

など

現場で動くクルーの声

なかなかできない面白い経験

ほりちゃん

北海道大学大学院M1
ポロクルクルーリーダー　堀　篤史さん

リーダーは主に台数調整の行き先の決定や自転車の修理を行なっています。今の利用台数や普段の利用状況から、自転車が不足しそうなポート、溢れそうなポートかつ現場のクルーが向かいやすいポートを選んで台数調整に向かってもらいます。

ポロクルでは同時に100台以上の自転車が利用されることもあるので、多くの人が利用できるようにうまく調整できたときはうれしいです。自転車の修理について、多いときには1日5~6台の自転車を修理することもあります。これだけの数の自転車の修理を行う機会はなかなかないので面白い経験だと思います。

社会貢献への実感がやりがいに

かぼ

北海学園大学1年
ポロクルクルー　柳川　果歩さん

街中を移動して回るので、家と学校の往復ばかりだった私には、街中の様子を知ることが出来てとても楽しかったです。自転車での移動は気持ちが良く、ルールやマナーについても知ることが出来て、経験値が増えたなと思います。ポロクルのポート周りのゴミを拾ったり、商店街の美化活動にも参加したり、社会に貢献しているという実感があり、とてもやりがいを感じました。自転車の積み下ろしで適度に体が動かせるので、体力作りにも繋がっていたと思います。
また、学生がほとんどの職場で、繋がりが増えました。
活動的な方が多く、良い刺激を受けることも多かったです。

発見！こんな所にもクルーたち

イベントやルールマナーの啓発活動のほかにも、クルーは様々な所で活動しています。こんなことまで!?と驚く方もいるのではないでしょうか。

二番街商店街での植栽の管理

商店街を彩りながら放置自転車の対策を、と置かれた二番街商店街の鉢植え。商店街の方々と協力しながら、この管理のお手伝いも行っています。商店街を鉢植えに水やりをしながら進み、帰りはごみを拾いながら戻ってきます。

交通安全こども自転車北海道大会

交通ルールなどの学科テストから、自転車走行の実技テストまで。
チーム競技を通して小学生たちが協力して「交通ルール」や「自転車操作」の技術を学ぶこの大会。
ポロクルクルーはこの大会の設営や当日補助も行っています。

ポロクルの新しい取り組み

札幌市が持続可能なまちづくりの一環として取り組んでいる水素エネルギーの利活用の促進。

水素は、使用してもCO_2を排出しない次世代のエネルギーとして期待されています。現在、NPO法人ポロクルは、トヨタ自動車北海道株式会社と共同で、札幌市が目指す「水素社会」の実現に向け、水素を動力源とするFC(燃料電池)アシスト自転車の開発に取り組んでいます。

2024年は、「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024」等のイベントで試作機の展示を行いました。今後、公道での試験走行を実施し、FCアシスト自転車の開発を進めていきます。

まとめ

様々な取り組みを通して、札幌のまちづくりと繋がるポロクル。そこで動くクルーたちはezorockの中では珍しい、アルバイトからボランティアという関わり方です。しかし、単なるアルバイトとしてポロクルの現場運営を行うのではなく、次世代を担う札幌の若者たちが、クルーとして自転車を通したまちづくりを考える。

そして、札幌のまちを安心安全に、そして笑顔で楽しめるまちに。クルーはこれからも、ポロクルを通したまちづくりに関わっていきます。

あなたもポロクルクルーとして、札幌のまちづくりに関わってみませんか。